

インターナショナル・スポーツ・カイト

ジャッジ・ブック（日本語版）2

version 2.01（2005年10月1日）

目次

インターナショナル・スポーツ・カイトジャッジ・ブック目次	・ 1
I 序文 INTRODUCTION	3
II 概要 GENERAL	4
A 責任 RESPONSIBILITIES.....	4
1. ジャッジの倫理 Judges Code of Ethics.....	4
2. 飛行技術 Flying Skills.....	5
B 運営指針 ADMINISTRATIVE GUIDELINES.....	5
1. スタッフ Staff.....	5
2. ミーティング Meetings.....	14
C 風待ちの手順 WIND RECESS PROCEDURE	
D 失格 DISQUALIFICATION.....	18
1. 概要 General.....	18
2. 凡例 Examples.....	18
採点の基本 THE BASICS OF SCORING	20
A 採点の手順 SCORING PROCESS.....	
1. ジャッジ Judges.....	
2. 採点の集計 Score Compilation.....	
B 採点要素の定義 SCORING COMPONENT DEFINITIONS	
1. 複雑性 Complexity.....	25

2	連続性 Continuity		
3.	コンパルソリー Compulsory	-----	
4.	コントロール		
5.	創造性		
6.	リズム		
7.	技術的難易度 Technical Difficulty.	-----	26
8.	タイミング Timing	-----	26
9	ウィンド・ウィンドウの活用 Use of the Wind Window.	-----	26
IV	プレジジョンの採点 SCORING PRECISION		27
A	概要 GENERAL DESCRIPTION		27
B	採点要素 SCORING COMI		
1	コンパルソリー（得点の60%（各々20%）Compulsories.....		27
2	テクニカルルーティーン（得点の40%） Technical Routine..		28
V	バレエの採点 SCORING		
A	概要 GENERAL		
B	採点要素 SCORING COMPONENT		
1	振付け（得点の60%） Choreography.	-----	29
2	実行力（得点の40%） Execution		29
VI	ペナルティの減点 SCORING		
A	バレエとテクニカルルーティーンのパナルティ PENALTIES FOR BALLET AND THE PRECISION TECHNICAL ROUTINE		
1.	インプロパービギニング/エンディング Improper Beginnings and Endings.....		30
2.	偶発的な接触(ティックス)とクラッシュ Incidental Contacts(Ticks and Crashes)		31
B	プレジジョンだけのペナルティ PENALTIES SPECIFIC TO PRECISION.....		33
1.	間違った図形の飛行 Flying the Wrong Figure		33
2.	「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls		33
3.	セットアップタイム違反 violation of Setup Time		
4.	コンパルソリー中の偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ Incidental Contacts(Ticks and Crashes)		34
C	バレエ音楽の準備 BALLET MUSIC PREPARI		

I 序文 INTRODUCTION

本書は、スポーツカイトのジャッジにおいて起きうる様々な問題点について定義づけするものです。また、本書は、ジャッジが何に注意を払い、どのように行動をするべきかについて基本的な方針を述べているのであって、決してジャッジがどのように物事を観、どのように判定すべきかを明記するものではありません。

ジャッジの皆さんはワークショップやセミナーに出席する際、本書をお持ちください。理論と実践は常に一体でなければならない。

気持ち良く競技を進行できるように、オフィシャル（競技役員）はしかるべきレベルの理解力と行動力を持つべきです。本書は、より明解になるよう簡略にした項目もあるし、多くの革新的な変更も加えています。しかしながら、このスポーツをより楽しく、わくわくしたのものとして存続させ、新しい競技者を増やし、多くの人々にサポーターとなって戴くためには、さらなる改良を重ねていかなければなりません。そのために国際ルールブック委員会（IRBC）は、皆様からの御意見を電話、手紙またはEメールで常に求めています。AJSKA、AKAあるいはSTACKのメンバーであるなら、皆様が所属している団体の役員がお受けします。

最新版はIRBCの公式サイト<http://www.worldsportkite.com/irbc.htm>
またはAJSKAのホームページで手に入れることができます。

注記:

本ルールブックは認可機関によって認められたルールであり、他に明記がない限り競技シーズンの開始から採用される。

ルールブックの公式採用日は下記の通りとする。

2006年4月1日 AJSKA

2005年8月1日 AKA

2005年10月1日 STACK

スポーツカイトルールの発展のために長年にわたって尽力くださった、いまや名を挙げるにはあまりにも大勢の皆様、IRBCは慎んで感謝を捧げます。

国際ルールブック委員会（IRBCメンバー（2005年10月現在））

A J S K A	A K A	STACK
立間文章	Mike Gillard	John Mitchell
島田 浩一	Darin Skinner/John Barresi	Peter Fielder

II.概要 GENERAL

A.責任 Responsibilities

1 ジャッジの倫理 Judges' Code of Ethics

ここでは、競技者がジャッジに求めうる権利とジャッジが対応すべきことの基本的な事項について述べている。しかし、判定は主観的なものであるから、各々のジャッジには各々違う見方があるということを常に心に留めておかなければならない。

a) 正直であること Integrity

ジャッジは、競技者のあらゆる演技・振舞に対し細心の注意力を注ぎ、ジャッジとしての能力を最大限発揮して正しく採点しなければならない。また、競技者との、あるいは使用されている用具メーカーや販売店との個人的・仕事上の関係は一切無視しなければならない。

) 客観的であること Objectivity

競技者の音楽、カイトの種類、レベル、年令、性別などに対する個人的な好みは一切排除して客観的に評価すること。

c) 偏見を持たないこと Open-Mindedness

観たままを評価する。自分が観たいもので評価しない。

d) 異義申し立て Criticisms

競技者から意見を求められたときは、いつでも建設的で正直な態度で答えること。

2 飛行技術 Flying Skills

ジャッジは、必ずしも競技者または元競技者である必要はない。しかし、スポーツカイトのフライト技術に関するあらゆる側面について正確に理解し、常に最新の情報を身につけていなければならない。

B 運営指針 Administrative Guidelines

1 .スタッフ Staff

a) スタッフ構成 Members of the Staff

(1) チーフジャッジ Chief Judge

競技会には一人のチーフジャッジを置く。チーフジャッジは競技種目のジャッジを兼任してもよい。チーフジャッジはその競技会において競技者として出場はできない。競技者が規定された抗議手続きの段階を全て踏むことができるようにする為、チーフジャッジがヘッドジャッジを兼任することは好ましくない。

チーフジャッジの責務は下記の事項である

- ・ スタッフの配置及び運営管理
- ・ 競技会のお知らせの編集、郵送、得点の発表の管理。
- ・ プレシジョン種目のコンパルソリーフィギュア(規定図形)を3つ決める。可能であれば、他のジャッジ、特にプレシジョン種目のヘッドジャッジと協議して決定する。

- ・ 競技会の最初と最後にミーティングを行う。
- ・ インターナショナルスポーツカイト コンペティションルールに従い、抗議について裁定する。
- ・ 各競技種目のフライトオーダーを準備する。
- ・ 公認の規定条件に合致していない場合、認可機関または認可機関が委任した機関に対して、公認の取り消しを勧告する。

注記： 例えば、その大会が A J S K A の公認大会ならば認可機関とは AJSKA を指す。

- ・ 競技会の開始時間・終了時間を決定する。
- ・ 競技会の終了後、レポートを作成する。その内容は、ささいな問題から失格（D（J）処置、抗議・苦情の内容とその処理、講評会での競技者やスタッフからの意見、また今後の競技会に向けてのチーフジャッジからの提言などを網羅する。
- ・ そのレポートは、競技会終了後 15 日以内に競技会の認可機関とスーパーバイザリコミッティに提出する。また、失格判定や競技者からの抗議事項に関与したヘッドジャッジにも提出する。
- ・ 競技会終了後 15 日以内にその競技会の認可機関に全ての競技種目の採点結果を報告する。

(2) ヘッドジャッジ Head Judge

各々の競技種目には一人のヘッドジャッジを置く。

ヘッドジャッジの責務は下記の事項である。

- ・ その競技種目に関する説明会を行う。

- ・ その競技種目のジャッジを行う。
- ・ ジャッジ・スタッフに手続き等に付いて指示する。
- ・ インターナショナルスポーツカイト コンペティションルールに従い、抗議について裁定する。
- ・ 種目毎の講評会を要求されたとき、または設定されているときは開催する。

(3) ジャッジ Discipline Judges

ヘッドジャッジに加えて最低 2 人のジャッジを置く(即ち、合計 3 人)。国際競技会においてはヘッドジャッジに加えて 4 人のジャッジを置く。どの競技会においても出来る限り 4 人のジャッジを置くことが望ましい。

注記:ここで言う「国際競技会」とは複数の認可機関が参加する競技会のことを示す。例:AJSKAとAKAとSTACK

(4) フィールドディレクターField Director

フィールドディレクターはその種目の競技進行に関する全ての権限と責任を負うものである。フィールドディレクターは以下の責務を負う。

(a) 一般事項 General

- ・ バレーの音源を集める。
- ・ 競技を公正にそして時間通りに運営する。
- ・ 競技者にインターナショナルスポーツ カイト コンペティションルールに記されているルールとガイドラインを守らせる。
- ・ 競技者に適切な人数のラウンチクルーを与える。

- ・ フィールド外からコーチするもの力(いないようにする。
- ・ スポーツマンらしからぬ品行があった場合、適切な処置をとる。
- ・ 風速を計り、ウィンドルールを実施する。

()安全性 Safety

- ・ あらゆる注意・警告事項を競技者に知らせる。
- ・ セーフティルールを侵害した場合、その種目において失格にする。
- ・ ラインジャッジを適切な位置に配備する。
- ・ 競技者と後方の境界線との距離を監視する。(その部分を監視できるラインジャッジがない場合)
- ・ 競技者に、後方の境界線に近づいたことを知らせる。
- ・ フィールド上に関係者以外の人がないか、また空中に障害物がないか、監視する。
- ・ 安全性に問題がある場合、適切な処置をする。

(c) 時間計測 Timing

- ・ 競技者にセットアップタイムを守らせる。
- ・ 競技者の演技時間を計測する。
- ・ 競技者の要求があればタイムコール（時間を知らせる）をする。
- ・ 競技者が最大制限時間に達したことをジャッジに知らせる。
- ・ 競技者が最小制限時間に達しなかったことをジャッジに知らせる。

(d) 調整 Coordination

- ・ 競技者にフィールド入場の合図を送る。
- ・ 競技者をフィールドに迎える。
- ・ 競技者の技術レベルに応じて適切な演技場所を指示する。
- ・ 特別な情報があれば競技者に伝える。
- ・ ジャッジの用意ができたことを競技者に伝える
- ・ 要求があれば競技者（個人またはペア、チームのリーダー）にコンパルソリー図形を見せる。
- ・ 「イン」「アウト」のかけ声がかかったことをジャッジパネル（審判団）に示す。
- ・ PA に音楽の開始を指示する。

- ・ ラインジャッジの動きを監視する。
- ・ ピットボスと連絡を取り合う。
- ・ 演技が終わったならば次の競技者が出来る限り早くフィールドに入れるようにする。
- ・ 風の中断など競技に影響を与える事が起きたとき、チーフジャッジ、ヘッドジャッジやその他の役員と連絡を取り合う。
- ・ 競技者から求められた場合、ラウンチクルーを手配する。

様々な理由でフィールドディレクターは上記の責務を果たすことができない場合があるかもしれない。しかし、だからといって、競技者がルールあるいはガイドラインの規定を免れることはできない。例えば、競技者が境界線に接近した時あるいはイエローフラッグを上げられた時に、そのことをフィールドディレクターが競技者に知らせ無かったとしても、競技者の体もしくはカイトが境界線を越えてしまったならば失格となる。

(5) ピットボス Pit Boss

「競技種目の参加競技者数と技術レベルによっては、必要に応じてピットボスを置く」とルールは定めている。ピットボスはフィールドディレクターの指導のもと、以下の責務を負う。

- ・ フィールドディレクターからフィールドインの合図が出るまで、競技者をステージインエリアで待機させ、演技開始の準備をさせておく。
- ・ 速やかにステージイン/ステージアウトエリアから全ての用具を競技者に撤去させる。

- ・ できる限りステージイン/ステージアウトエリアは何も無い状態にしておく。(用具を置きっぱなしにしない、誰もそこにはいないようにする。)
- ・ 常にフィールド内には関係者以外を入れないようにし、フィールド上空には障害物がないようにする。
- ・ 安全上の問題が起きた時はフィールドディレクターに警告すること。
- ・ 競技説明会(競技会開始前のパイロットミーティング)において決定した方法に従い、必要があれば他の競技者の中からラウンチクルーを指名する。

(6) ラインジャッジ Line Judges

二人のラインジャッジを置くこと。ラインジャッジはフィールドディレクターの指導のもと、以下の責務を負う。

- ・ 境界線を監視する。競技者のカイトが境界線を越えた場合、フィールドディレクターに報告する。通常、内側境界線を越えた場合にはイエローフラッグ、外側境界線を越えた場合にはレッドフラッグを合図として上げる。

- ・ 演技の最中に競技者の体が境界線を超した場合、フィールドディレクターに報告する。通常、内側境界線を超した場合にはイエローフラッグ、外側境界線を超した場合にはレッドフラッグを合図として上げる。
- ・ フィールド上に関係者以外を入れないようにし、フィールド上空に障害物がないようにする。
- ・ 安全性に問題があればフィールドディレクターに警告する。

(7) 得点係 Scorers

得点係はチーフジャッジの指導のもと、以下の責務を負う。

- ・ スコアシートが読みやす<完璧である力 x 確認する。
- ・ ジャッジのスコアシートを集計する。
- ・ 最終得点から差し引<ペナルティを確認し、減点する。

注記: -A-2-c 最終得点からの減点 に示す 3 つの違反がある場合。

- ・ 各競技種目の順位を決める。
- ・ チーフジャッジの指示のもと、得点を公表する。

) スタッフの交代 Changes in Staff

できうる限り、一つの競技種目を通して同じスタッフが担うこと。しかし、交代をしなければならない場合、以下の事項を守ること。

ジャッジが競技の途中で抜ける場合、そのジャッジのスコアは全て抹消される。そのジャッジがヘッドジャッジである場合は、残りのジャッジの中からヘッドジャッジを指名する。

ジャッジが抜けた場合、最低三人のジャッジが残っていること。ジャッジが抜けたことによって審判団が三人に満たない場合は、その競技は無効とし、新たに審判団を揃えて再開する。

フィールドディレクター、ラインジャッジ、ピットボスは必要に応じて交代してもよい。

2 ミーティング Meetings

ミーティングに出席することを推奨する。認可機関、イベント主催者、チーフジャッジはミーティングへの出席を必須条件 (mandatory) にする事ができる。 その場合、最低 30 日前にはその旨を競技者に知らせること。

注記：必須条件 (mandatory) とは -D-2-c に示すように、失格事項に決めることもできる。

a) 説明会 Briefings

(1) 競技説明会 (パイロットミーティング)(進行:チーフジャッジ) Competition Briefings

競技説明会では、チーフジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- ・ 事前公表のスケジュールからの変更点の説明。
- ・ 安全性の重要性を強調する。
- ・ 競技フィールド、練習フィールド及びその他の制限区域を説明する。
- ・ ステージイン、ステージアウト (入場、退場) の手順を説明する。
- ・ 適宜、公認スタッフ及び参列者の紹介をする。
- ・ スケジュールに混乱が生じたときの調整の手順を説明する。
- ・ スーパーバイザリコミッティの競技者代表の選出を監督す

る。また、ジャッジ代表が選出されていることを確認する。

- ・ ラウンチクルーの選出方法を決定する。
- ・ 競技会に問するその他の事柄について話し合う。
- ・ 異義申し立ての方法を確認する。
- ・ 講評会(競技終了後)への出席を伝える。
- ・ 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)
- ・ 競技者の質問に答える。
- ・ 競技会開催の間、競技者の質問を受け付けるスタッフを決める。また、連絡等の告示を貼り出す場所を示す。

(2) 競技種目説明会(プレフライトミーティング)(進行:ヘッドジャッジ) Discipline Briefing

競技種目説明会では、ヘッドジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- ・ ジャッジ、フィールドディレクター、ラインジャッジ、ピットボスを紹介する。
- ・ 点呼をし、フライトオーダーを発表する。
- ・ バレー種目の音源をフィールドディレクターに集めさせる。
- ・ ラインジャッジの位置の確認。
- ・ ステージイン、アウトの手順の確認。
- ・ ラウンチクルーの割り振り方法の確認。
- ・ プレシジョン種目のコンバルソリー(規定図形)の発表とその確認

- ・ 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)

) 講評会 Debriefings

(1) 競技講評会 (ディブリーフィング)(進行:チーフジャッジ)

Competition Debriefing

競技会終了後ただちにチーフジャッジは講評会を開く。ただし、競技会主催者あるいはチーフジャッジの判断によるが、表彰式・結果発表の後に行うべきである。講評会は、この先開催する競技会をより良いものとするための、競技者に意見交換を求める場である。また、オフィシャル、特にチーフジャッジとヘッドジャッジから競技会全体について、及び各種目についての意見を述べる場でもある。チーフジャッジは講評会で話題にのぼったこと全てをレポートに害《こと。

一つ以上の認可機関が公認した国際競技会の場合、レポートはインターナショナルルールブック委員会(IRBC)に送付すること。

正式の講評会が終わった後に、競技者は自分の採点を行ったジャッジ達と演技内容について話し合う機会を持つべきである。それにより、競技者は演技を磨くのに有益な意見・感想を得る事ができる。

(2) 競技種目講評会（進行:ヘッドジャッジ）Discipline Debriefing

競技者またはオフィシャルから要望があれば、ヘッドジャッジはその種目の講評会を開くこと。その目的は以下の通りである。

- ・ 競技中に起きた事柄についての説明。例えば、風待ちの中断、失格など。
- ・ 演技内容について競技者からの質問に答える。
- ・ 競技者に、ジャッジやオフィシャルから建設的な批評やアドバイスを述べる。
- ・ どうすればさらに良い競技会になるのか、どこを簡潔化すればよいのか、意見を出してもらおう。

C . 風待ちの手順 Wind Recess Procedure

風待ちの中断となった場合は、ヘッドジャッジは風の状態が規定の範囲になるまで待ち、風待ちの中断が宣言された時点での飛行順から続行する。

適切な時間内に風の状態が改善しない場合、ヘッドジャッジはチーフジャッジ及び必要ならばスーパーバイザリコミッティとも相談し、方針を決める。その決定はインターナショナルスポーツカイト競技会ルールのガイドラインに従う。決定後、オフィシャルは、全ての競技者が公正に扱われるよう最善を尽くすこと。

D . 失格 Disqualification

1 概要 General

オフィシャルが競技者を失格にした場合、そのオフィシャルは競技者に渡す報告書を作り、そのコピーを認可機関に送付しなければならない。失格になった競技者がオフィシャルの決定を不服とする場合、そのオフィシャルは、報告書を作成して競技者に渡し、そのコピーを認可機関に送付しなければならない。

失格は、その失格を受けた競技者種別（個人、ペア、チーム）のみに適応する。例えば、チームが失格となった場合でも、そのチームのメンバーはそれぞれ個人競技に参加できる。

失格となった競技者はただちにフィールドを出ること。いかなる抗議も議論もその競技種目の終了後に行うこと。

2 凡例 Examples

違反があった場合、オフィシャルはただちにルールの違反規定に基づいて決断をしなければならない。

a) スポーツマンらしからぬ振舞 Exhibiting un-sportsmanlike Conduct

スポーツマンらしからぬ振舞をした競技者はその種目を失格となる。違反を繰り返し、暴力的かつ危険な行動をする者はその競技会を失格となる。

) 演技中に他者からアドバイスを受ける

Receiving Advice on the Competition Field during a Discipline

演技中にフィールド上でフィールドディレクター以外の者からアドバイスを受けた競技者は、その種目の最終得点から得点係が10点減点する。

アドバイスをを行う、やじることはスポーツマンシップに反する行為とみなされる。繰り返し行う場合、また深刻な妨害行為はその種目を失格になる。

c) 境界を越えたフライト

演技の前後を含めて境界線の外側を飛行したことが認められた場合は失格となる。このルールはヘッドジャッジに定められたその競技の開始から終了までの間適用される。もし演技中に競技者の身体の一部でも境界線から出た場合も失格となる。

注釈:c)義務付けられた説明会を欠席した場合 と d)演技開始後にフィールド内に用具を持ち込んだ場合 の2つは削除されました。

1. 採点の基本 THE Basics of scoring

ジャッジは定義された採点項目毎に0から100までの点数（整数）をつける。この点数でその競技種目の順位を決める。

採点は競技者の技術レベル〔クラス〕は考慮せずに、演技内容そのものに対して評価を行う。そうすることにより、得点を比較することでクラス分けに関係なく全競技者の実力を比較することが可能になる。

注記： 採点は相対評価ではなく、絶対評価をする。個々の大会における順位は相対的なものだが点数はその競技者の実力を示す指標になるべき、との方針。すなわち、点数を見ることで海外のフライヤーなどとの力量を居ながらにして比べることが可能になる。

A, 採点の手順 Scoring Process

1 ジャッジ Judges

a) 位置 Position

通常、ジャッジは競技者及びフィールドディレクターの妨げにならない、競技者の後方に位置する。すなわち、競技者の動きに合わせてジャッジは移動しなければならない。

b) コンディション Conditions

ジャッジの採点は不安定な風や天候の悪条件を反映してはならない。例えば、悪天候だからといって採点があまくなることはない。つまり、ジャッジは観たものだけをそのまま採点するのであり、なにものにも左右されない。

c) 書類 Documents

ヘッドジャッジは、最新版のインターナショナルルールブック及び認可機関が作成した附則（追加要綱など）類を持ってフィールドに行くこと。

採点表には最低限下記の項目を入れる。

- ・ 競技会名
- ・ 開催年月日
- ・ 競技種目
- ・ ヒト 予選（必要な場合）
- ・ クラス
- ・ ジャッジの名前(もしあれば登録番号)
- ・ 競技者の飛行順
- ・ 競技者の名前と登録番号
- ・ 種目毎の採点要素の得点（素点）記入欄
- ・ 偶発的な接触のペナルティ
- ・ インプロパーエンディングのペナルティ
- ・ リラUNCH出来なかったクラッシュが最小制限時間の前か後か
- ・ その他のペナルティ
- ・ 備考欄

2 採点の集計 Score Compilation

a) 手順の概要 General Procedure

ジャッジは採点とコメントをスコアシートに記入する。最終得点から減点するペナルティを除いたペナルティに対する減点はジャッジが決定し、スコアシートにそれを明記し、それぞれの採点要素欄に減点した点数を記入する。得点係がジャッジのスコアシートを集め、集計し、順位を決める。

) 個々の得点の集計 Calculating the Individual Scores

各競技者について、各ジャッジからのコンポーネントの得点を集め、集計し、[I.V. プレシジョンの得点]並びに[V. バレーの採点]に基づいて競技者の演技に順位を決める。すべてのジャッジの採点は最終得点の確定に用いられる。ただし、シャドージャッジ(トレーニング期間中のジャッジ)は含まれない。認可機関がある特定の採点プログラムまたは方式を公式に認可した場合、そのプログラムまたは方式を認可機関の管轄下のすべての大会で用いて得点の集計を行わなければならない。すべてのデータと計算はダブルチェックすること。

c) 最終得点からの減点 Deductions From Final Score

いくつかの違反は、総得点あるいは採点要素の最終得点から減点する。ジャッジはその違反内容を明確にスコアシートに書き示す。それに対してペナルティを課す場合は、まず通常通りに得点を計算し、そこから得点係がペナルティの減点分を差し引き、最終得点を計算する。最終得点から複数のペナルティ減点もありえる。

違反	減点
フィールド上で助言を受けた	最終得点から 10 点減点
音源の名前の付け忘れ頭出しの忘れ	最終得点から 10 点減点

d) 種目の総合得点 Combining Scores across Disciplines

すべての種目が最終スコアとして集計される際、それぞれの種目を加え、その種目数で割る

注記:これにより、100%採点方式が削除された。

注記:上記の通り、バレーとプレジジョンの重み付けは無くなった。(比率は同じであ

e) 得点の発表 Publishing Scores

競技種目あるいはクラスの成績発表は、競技音名と得点を併記する。ジャッジの名前を出すかどうかは認可機関が決定する。国際競技会ではジャッジの名前は発表する。

競技終了後の競技種目講評会では、競技者は各々のジャッジと自分の得点と演技について話し合うことができる。

B . 採点要素の定義 Scoring Component Definitions

ここでは、評価に用いるいくつかのキーワードを定義し、採点要素 (Scoring Component) をどのように採点するのかを説明する。

1 複雑性 Complexity

複雑性とは、どれぐらいたくさんの種類の要素を取り入れているか、それらの要素をどのようにつなぎ合わせているか、どのように変化させているか、等のことをいう。一般的に、エラーやアドリブの割合の少ない振り付け (事前に計画された振り付け通りに演技される) ルーティーンは複雑性が高いと判断できる。

2 連続性 Continuity

連続性とは、ルーティーンの各々の要素が互いに流れるようにつながり、一つの完成体として連続していることをいう。

3 コンパルソリー Compulsory

コンパルソリーとは、プレジジョン種目における規定図形をいう。インターナショナルスポーツカイトコンパルソリーブックにそれらの図形と説明が記されている。

4 , コントロール Control

コントロールとは、競技者の思いの通りにカイトを飛ばす技術をいう。直進、後退、水平移動の技術力、スピードコントロール、あるいはストールやアクセルの技術力、それらカイト操作技術の正

確さを含む。マルチライン種目では、マルチラインの飛行特性をコントロールする技術を表現すべきである。

5 創造性 Creativity

創作力が演技にみられるかどうか。

6 リズム Rhythm

いろいろな動き、スピードの変化、静止、などを繰り返し、交互に行うことによってカイトの動きに躍動感や変化を付けること。

7 技術的難易度 Technical Difficulty

技術的により難しく、大胆なカイト操作を取り入れているか。

注意：チーム競技において、メンバーの多さを自動的に技術的難易度に反映はしない。

8 タイミング Timing

タイミングとは、マニューバー（操作）とマニューバーの間隔をいう。個人競技においては調和の取れたきれいな間隔でカイトがターンしているか、ペアまたはチーム競技においては、カイトの動きがきっちり揃っているかなどのことをいう。

9 ウィンドウィンドーの活用 Use of the Wind Window

カイトが飛行出来る範囲をより広くいっぱい活用して演技しているか。

IV. プレシジョンの採点 SCORING PRECISION

A . 概要 General Description

プレシジョン種目は3つのコンパルソリー（規定図形）とテクニカルルーティーンから成る。そして、テクニカルルーティーンの採点要素は、実行力（EXECUTION と構成力（CONTENI に分けられる。

B . 採点要素 Scoring Components

コンパルソリーとテクニカルルーティーンの配分割合は下記による。

- 1 コンパルソリー（各々20% = プレシジョン得点の 60 匈 Compulsories
(each 20%of precision score)
 - ・ すべての規定図形には2つのクリティカル・コンポーネンツが設定されています。そしてそれは採点に関して大きなウェイトを占めます。国際競技会ではそれぞれのクリティカル・コンポーネンツはその図形の採点の30%にもなります。クリティカル・コンポーネンツを重要視する事により、フライヤーもジャッジもその規定図形が求める要素が何であるかに注目し、正しく図形を描くこととなります。
ただ、クリティカルコンポーネントはあくまで規定図形の要素の一部であり、仮にそれがまったく実行されなくても、その規定図形が0点になるものではない。

注記:ここで言う「国際競技会」とは他国の競技者が参加する場合のことを言う。
例:スペインとイタリア
 - ・ コンパルソリー図及び説明内容の通りにフライトしているか比較する。
 - ・ コンパルソリーブックで定義している「A グリッド上の位置」「B , 図形の調和」「L スピードコントロール」など図形に関する事項に注目して評価する。

注記:コンパルソリーブックの . 用語解説に詳しい内容が書かれているので参照のこと。

2. テクニカルルーティーン (プレシジョン得点の 40%) Technical Routine (40% of Precision Score)

a) 実行力 Execution (テクニカルルーティーンの 75%、プレシジョン得点の 30 点)

- ・ コントロール、複雑性、独創性、ウィンドウインダーの活用を評価する。
- ・ 大胆な操作と技の質を評価する。
- ・ マルチライン種目では、マルチラインカイトの飛行特性を効果的に表現しているかを評価する。
- ・ ペアとチーム競技では、タイミングとカイトのスペーシングを重要視する。

b) 構成力 Content (テクニカルルーティーンの 25%、プレシジョン得点の 10 点)

- ・ 複雑性、独創性、リズム、創造性、連続性を評価する。
- ・ 大胆なマヌーバ(操作)やトリック技が盛り込まれているかを評価する。

V. バレーの採点 SCORING BALLET

A . 概要 General Description

バレー種目は、競技者が選択した音楽に合わせて行う自由演技である。

B . 採点要素 Scoring Components

1. 振付け Choreography (バレー得点の 60 点)

音楽をいかに理解し表現しているか、が重要なポイントである。

連続性、創造性、複雑性、リズムを評価する。

2. 実行力 Execution (バレー得点の 40 点)

「コントロール」「ウィンドウの活用」「技術的難易度」
「リズム」を評価する。

ペアとチーム競技では、「タイミング」と「スペーシング」を評価する。

注記：「スペーシング」はコンパルソリーブックの . 用語解説のMを参照のこと。

VI.ペナルティの減点 SCORING PENALTIES

A. バレーとテクニカルルーティーンのパナルティ Penalties for Ballet and the Precision Technical Routine

ここでは、いくつかの採点要素に対する強制減点及び任意減点について定義する。

1. インプロパービギニング/エンディング Improper Beginnings and Endings

下記 a) b) c) のペナルティは、審判団が満場一致で決定した場合のみ適応される。

a) セットアップタイム違反 violation of Setup Times

競技者が定められたセットアップタイム以内で演技を開始せず、フィールドディレクターが「イン」のかけ声を掛け強制的にスタートさせた場合、バレーの振付けの得点から 10 点減点、プレシジョンにおいてはテクニカルルーティーンの構成力の得点から 10 点減点する。

) 制限時間の違反 violation of Discipline Time Frames

(1) 最小制限時間より短かった場合 Less than Minimum Time

演技時間が定められた制限時間に満たなかった場合、演技は行わなかったものとみなし、得点はゼロとする。

(2) 最大制限時間を越えた場合 More than Maximum Time

演技が制限時間を越えた場合、制限時間外の演技はなかったものとして、制限時間内の演技だけを対象にジャッジは採点す

る。加えて、バレーの振付けの得点から 10 点減点、またはプレジジョンのテクニカルルーティーンの構成力の得点から 10 点減点とする。

c) はっきりしない「始まり」または「終わり」 Lack of Conceptual Beginning or Ending

テクニカルルーティーンとバレーの演技は、「始まり」、「中間」、「終わり」という三つの構成で成り立つべきものである。演技の「始まり」または「終わり」がきちりと明瞭に演技されなかった場合、バレーは振付けの得点から 10 点減点、プレジジョンのテクニカルルーティーンでは構成力の得点から 10 点減点とする。

2 偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ Incidental Contacts (Ticks) and Crashes

ティックスやクラッシュはペナルティーとならない。
ジャッジは演技の一部として総合的に採点する。
以前のように、ペナルティーとして回数をジャッジパネルで統一し強制減点したりはしない

注・クラッシュやティックスは定義そのものがなくなっています。たとえばバレーではクラッシュ後 4.5 秒以内にリラUNCH 出来なければ 0 点でしたが 4.5 秒以上リラUNCH できなくても強制的に 0 点になったり演技を中止させられたりする事はありません。

B . プレシジョンだけのペナルティ Penalties Specific to Precision

1 間違ったフィギュアの飛行 Flyin g the Wrong Figure

指示された図形と異なる飛行をした場合、ジャッジはそのコンパルソリーの得点をゼロとする。競技者から事前に進入方向を逆から行う、と報告せずに図形の指示とは逆の方向からコンパルソリーを開始したときもゼロとする。

2 「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls

テクニカルルーティーンあるいはコンパルソリーにおいて競技者が「イン」あるいは「アウト」コールをしなかった場合、その要素はゼロと採点する。

注記：コンパルソリーのうちの一つでこの違反があった場合、そのコンパルソリーに対してのみゼロであり、他の2つに対しては採点される。

3 セットアップタイムの違反 violation of Setup Time

コンパルソリーにおいて、競技者が規定のセットアップタイム内で演技開始できなかった場合、その図形に対してはゼロとする。その次のプレシジョンの要素（コンパルソリーまたはテクニカルルーティーン）に対するセットアップタイムの計測は直ちに開始する。

4, コンパルソリー中の偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ Incidental Contacts (Ticks) and Crashes During Compulsory

ティックスやクラッシュはペナルティーとならない。

ジャッジは演技の一部として総合的に採点する。

以前のように、ペナルティーとして回数をジャッジパネルで統一し強制減点したりはしない

注・クラッシュやティックスは定義そのものがなくなっています。たとえば規定図形の途中で墜落しても強制的に0点になったり演技を中止させられたりする事はありません。競技者はリラUNCHして残りの図形を描く事ができます。ただし規定図形は IN コールから45秒以内に OUT コールが必要というルールがありますので、リラUNCHに時間がかかり、これをオーバーすると強制的に終了となり、その図形は0点になります。

C. バレー音楽の準備 Ballet Music Preparation

きちんと音楽の頭出しができていない、または音源に名前を記載していないとヘッドジャッジカ伴|』断した場合、全てのジャッジに音楽のペナルティとしてスコアシートに明記させ、得点係がバレーの最終得点から10点減点する。

添付 A: スコアシートのサンプル Appendix A Sample Score Sheets

バレエ Ballet

大会名 場所 年月日

種目名	ジャッジ名・登録番号
	競技者名・登録番号

振付け Choreography (a) 100点	連続性 Continuity	低・普・高	備考	スコア
	創造性 Creativity	低・普・高		
	複雑性 Complexity	低・普・高		
	音楽の解釈 Interpretation	低・普・高		
	リズム Rhythm	低・普・高		
実行力 Execution (40) 100点	コントロール Control	低・善・高	備考	スコア
	ウィンドウの活用 Use of Window	低・普・高		
	技術的難度 Technical Difficulty	低・普・高		
	リズム Rhythm	低・普・高		
	ペア/チームのタイミング Pairs/Teams : Timing	低・普・高		
	ペア/チームのスペーシング Pairs/Teams : Spacing	低・普・高		
最終得点に 対するペナルティ	競技中の助言が: 有る・無い	音源名無し/頭出し忘れが: 有る・無い	境界線を越えたフライトが 有る・無い	

このペナルティはジャッジではなく得点係が最終得点から減点する。

プレジジョン Precision

大会名

場所

年月日

競技種目名	ジャッジ名・登録番号					
	競技者名・登録番号					
コンパルソリーCompulsories (全体 60%、各規定図形 20%)						
形、大きさ、キレ、スピード コントロール 0-100点 IN コールから 4 5 秒以内に OUT コールしなかった図形は 0 点	図形 1		図形 2		図形 3	
	備考		備考		備考	
	スコア	スコア	スコア	スコア	スコア	
テクニカルルーティーン Technical Routine (40%)						
実行力 Execution (75 叫 0-100 点	コントロール Control		低・善一昌		備考	
	ウィンドウの活用 Use of v nd Window		低・普・高			
	技術的難度 Technical Di 佃 culty		低・普・高			
	トリック Tricks		低・普・高			
	マルチライン の Multi-Lina Mul 七		寺性の表現 -Line Effect			低・普・高
	ペア/チームのタイミング Pairs/Teams : Timing		低・普・高		スコア	
	ペア/チームのスペーシング Pairs/Teams : Spacing		低・普・高			
構成力 Content (25 叫 0-100 点	複雑性 Complexity		低・善一昌		備考	
	創造性 Creativity		低・普・高			
	連続性 Continuity		低・普・高		スコア	
最終得点に対するペナルティ	競技中の助言が: 有る・ 無い		境界線を越えたフライトが 有る ・ 無い			

このペナルティはジャッジではなく得点係が最終得点から減点する。

添付 B: 参照リスト Appendix B: Field References

フィールドディレクター用参照リスト Field Director Field Reference

ISK ジャッジブックより

参照項目	ジャッジが判断するペナルティの内容
A.1.a)	セットアップタイム違反
A.1.a)	次のコンパルソリーあるいはテクニカルルーティーンの開始が遅れた
A.1.b)(1)	バレーあるいはテクニカルルーティーンが最小制限時間に満たない
A.1.b)(2)	バレーあるいはテクニカルルーティーンが最大制限時間を越えた
.D.2.b)	演技中に助言を受けた
.D.2.d)	演技開始後にフィールドに持ち込まれた用具を使った
	コンパルソリーの OUT コールが 4.5 秒以内になかった。
	失格になりうる安全違反の種類

ISK ルールブックより

参照項目	時間制限	個人	ペア	チーム
.G	競技開始のセットアップ	3分	4分	5分
.G	次のコンパルソリーまでのセットアップ	45秒	45秒	45秒
.G	テクニカルルーティーン開始までのセットアップ	90秒	90秒	90秒
I.2.0	テクニカルルーティーンの演技時間(最小~最大)	1~3分	2~5分	2~5分
IV.H.1.	バレーの演技時間(最小~最大)	2~4分	2~5分	2~5分
	コンパルソリーの IN から DOT までの時間	45秒	45秒	45秒

フィールドディレクターが演技開始の許可を与えてから 1.5 秒以内に演技を開始しなければならない、ということは決して無い。

ISK ルールブックより

参照項目	風速規定	個人	ペア	チーム
IV.J.2.	ウインドチェックコールを受付ける時間(各種目の最小制限時間まで)	バレーは開始から 2 分以内、テクニカルルーティーンは開始から 1 分以内	バレー、テクニカルルーティーン共、開始から 2 分以内	バレー、テクニカルルーティーン共、開始から 2 分以内
IV.J.1.	風速の測定: 10 秒間計測し、平均値を読む	ノービス	2.0 ~ 8.3 m/s (7 ~ 18 mph)	
		ノービス以外	1.1 ~ 12.5 m/s (2.5 ~ 28.0 mph)	

ISK ルールブックより

参照項目 Ref.	ラウンチクルー	個人	ペア	チーム
.Q	最大人数	2名	2名	チームメンバー数

ジャッジ用参照リスト Judges Field Reference

ISK ジャッジブックより但し ((哨はルールブックより

	コンパルソリー図形	テクニカル内容	テクニカルの実行力	テクニカルルーテーション	プレジジョンの完了	バレエの実行力	バレエの振り付け	バレエの完了	参照ページ	参照項目
セットアップタイムの違反	ゼロ								21	VI.B.3
		-10						-10	20	VI.A.1.a)
最小時間以下				ゼロ				ゼロ	20	VI.A.1.b)(1)
最大時間以上	ゼロ	-10					-10		20	VI.A.1.b)(2)
不適切な演技の「開始」「終了」		-10					-10		20	VI.A.1.c)
間違った図形でのフライト	ゼロ								21	VI.B.1
インアウトコールの欠落	ゼロ			ゼロ					21	VI.B.2
音楽の頭出し等準備ミス								-10	21	VI.C
フィールド内で助言を受けた						-10		-10	13	II.D.2.b)
スポーツマンらしからぬ振舞い						失格		失格	13	II.D.2.a)
境界線を越えたフライト						失格		失格	RB 8	III.B.2/3

添付 C : 抗議書のサンプル Appendix C : Sample Protest Form

抗議書 Protest Form

大会名	場所	年月日
競技者名個人名チーム/ ペア名	個人名・登録番号	
	チーム/ペア名・登録番号	

抗議対象の競技種目名 Discipline in or about which the protest is being filed
抗議内容に関連するルール条項 Specific rule book reference
抗議の内容 Specific protest
ジャッジ・オフィシャル等の対応内容 Action taken

添付D：チーフジャッジ大会レポート Appendix D Sample
Chief Judge's Report

チーフジャッジ大会レポート Chief Judge's Report

大会名 Event Name						
場所 Location						
開催年月日 Date						
認可機関名 Sanctioning Authority						
チーフジャッジ名 Chief Judge						
オーガナイザー Event organizer						
種目別参加競技者数 Number of Competitors Listed by class and discipline	種目名	人数	種目名	人数	種目名	人数
天候 Weather Conditions	天気		風速			
観客数/観客の反応・評判 Spectator Attendance Notes on spectator reaction						
大会初参加者の獲得は？ Efforts to Enlist New Fliers						
大会概要/問題点/今後に向けての改善提案など General Notes on Competition, Including any difficulties and Recommendations to avoid repeating						
抗議事項/その対処内容 List of any Protests and their Resolution						
講評会での競技者からの意見 Competitors Suggestions at Debriefing						